

2024年11月15日

The Emerging Markets Weekly

トランプ次期政権を巡る不透明感が重しに

新興国市場:先週末8日のアジア時間はFOMCで▲25bpの利下げが決定されたことが支援材料になるも、中国の景気支援策の内容が嫌気されリスク心理は改善せず。IDRやMYRが持ち直すも上値の重い動きとなった。欧米時間、トランプ次期政権の先行き不透明感からリスクオフとなり、新興国通貨は軟調に推移。CLPが前日比▲2.4%、MXNは前日比▲1.9%と大きく値を下げた。11日、週末に公表された中国10月消費者物価指数(CPI)の軟化や米金利の高止まりを受けて、アジア通貨はほぼ全面安。THBやMYRが下げ幅を拡大した。欧米時間は、米国休場ながらユーロの対ドルでの下落や資源価格の軟化が重しに。ZARは前日比▲1.9%、PLNが同▲1.5%と下げが目立った。12日、アジア時間は米国の保護主義化に関する懸念が根強く、CNYを中心にアジア通貨は軟調に推移した。欧米時間もその流れが継続し、資源国通貨を中心に売られた。13日、米国のインフレ関連指標の公表を控え小幅な値動き、国内景気の減速懸念が嫌気されたMYRが約3か月ぶりの安値を記録した。海外時間は米10月CPIが前月から騰勢を強めたこと、共和党が下院選で過半数を確保したことでトランプ次期政権の動向が一層警戒されドルが続伸。中南米通貨を中心に売られ、BRLは財政政策への不透明感から前日比▲0.9%下落した。14日、アジア時間は前日の流れが続き軟調。THBは前日比▲1.2%、MYRも下落。欧米時間、米金利が一時低下するもパウエルFRB議長の発言を受けて再上昇し、新興国通貨はまちまち。MXNが上昇した。

アジア:8日発表の中国7~9月期経常収支が公表され、経常収支は+1469億ドルの黒字、10月貿易収支は+957億ドルと過去3番目の黒字額を記録。一方、トランプ次期政権との対立により輸出が鈍化する懸念も根強く、CNYは一時7.24台を記録、8月以来の安値をつけた。9日、中国10月CPIは前年比+0.3%と前月から鈍化。10月生産者物価指数は同▲2.9%と25か月連続でマイナス圏を推移した。12日、インド10月CPIは同+6.21%と市場予想を上回った。食料品価格の上昇が主因となり物価目標レンジ(+2.0~+6.0%)を1年2か月ぶりに上振れた。13日、中国政府は不動産取得税の減税を拡充する方針を示した。北京、上海、広州、深圳の4都市も減税措置の対象に追加される。

中東欧・アフリカ:14日公表のロシア7~9月期実質GDP成長率は前年比+3.1%と前四半期の同+4.1%から減速したが軍需産業が経済をけん引。同日公表された10月CPIの結果は前年比+8.5%と市場予想と概ね一致した。

ラテンアメリカ:8日公表のブラジル10月CPIは前年比+4.76%と市場予想を上回った。14日、メキシコ中央銀行は政策金利を▲25bp引き下げ10.25%にすることを全会一致で決定した。利下げは3会合連続。同日、米大手格付け機関は、メキシコの信用格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」へ引き下げた。憲法改正の影響を懸念しての措置と説明されている。

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(中国)

中国: 国際収支関連統計から見る中国経済の現状

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

外需頼みの状況は変わらず

10月 S&P グローバル PMI(財新)の結果は51.9と9月から+1.7ptの改善(図表1)。製造業は前月から+1.0pt 上昇して50.3、非製造業は+1.7pt 上昇し52.0となった。製造業については生産指数をはじめ複数の項目が持ち直した格好となったが、新規輸出受注指数は49.4と3か月連続で50を下回った。非製造業については事業活動指数や先行きの活動指数が改善しており、当局による景気支援策が实体经济に波及を始めたと言及する声も見られた。また、7~9月期実質 GDP 成長率について詳細項目が公表されており、個人消費の寄与度は+1.3%ptと4~6月期の+2.2%ptから縮小した(図表2)。他方、純輸出については+2.0%ptと4~6月期の+0.6%ptからまとまった幅で拡大しており、不動産関連指標の軟化や消費者心理の低迷が確認される中で、外需依存の度合いを強めていると読むことも出来る。

数字上では強く映る貿易黒字

かかる中、10月の貿易黒字は+957億ドルと6月以来の黒字幅を記録。特に輸出は前年比+12.7%と22年7月以来の強い数字であった。GDPの結果から示唆される通り、23年の後半を底に輸出が持ち直している状況が見て取れる(図表3)。国別に見ると、しばらく停滞していた米国向けの輸出が増加傾向で、これはトランプ氏勝利を見越して輸出を前倒ししている可能性がある。10月単月の輸出実績が強かったことと合わせてこれらの動きが一過性で無いかは確認が必要だ。一方で輸出物価に目を向けると、主要品目について前年割れが継続している。内需が振るわないことを背景に、価格を下げてまで外需に活路を求めざるを得ない傾向はむしろ顕在化しつつある(図表4)。同様に、低調に推移する輸入の動向も内需の弱さを裏打ちする格好となっている。10月の結果は同▲2.3%と4か月ぶりにマイナスとなった。過去2か月の数字を見ても辛うじてプラスを維持していたという状況であり、輸入が相対的に伸びていなかったことも結果として貿易黒字を拡大させたようだ。

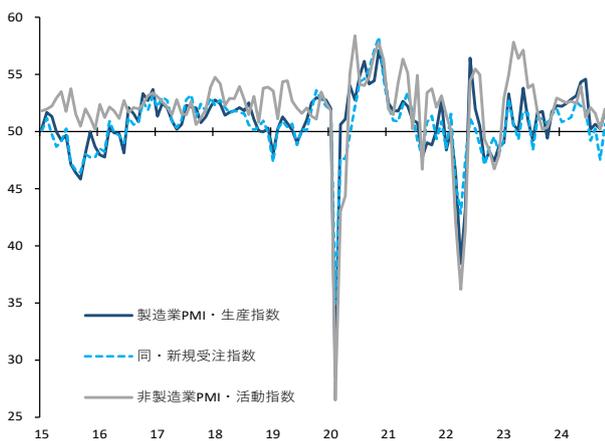
また、7~9月期の経常収支は+1469億ドルの黒字を記録しており、こちらも22年7~9月期以来の強い数字となっている(図表5)。上述の通り、貿易黒字額が+2298億ドルと前四半期の+1671億ドルからまとまった幅で増加しており、これが主な要因となった。一方で、世界的な行動制限の解除により赤字幅を拡大させてきたサービス収支の赤字については▲585億ドルと前四半期の▲617億ドルから若干縮小した。サービス収支の赤字の大部分を占める旅行収支については未だコロナ前の水準には到達しておらず、こうした点も中国経済の持ち直しペースが緩慢で中国の家計部門の消費意欲が強くないことを示唆している。10月の国慶節においても、人やモノの移動状況などから節約志向が強いことが報じられており、今後公表される統計をもって実態を把握したい。

一層警戒されるトランプリスク

中国経済の外需依存が強まる中で気がかりとなるのは、米国でのトランプ氏の大統領就任である。既報の通り中国からの輸入品について60%の関税を課す方針を示すなど、対中政策については厳格化することがほぼ確実である。第1次トランプ政権

時においても、米中貿易摩擦が争点化した 2010 年代終盤にかけては中国の対米貿易黒字幅は頭打ちになっていることが確認できる(図表 6)。市場で懸念されている米国の保護主義化が現実となれば、中国はその最大の影響をうける国の1つになるだろう。こうした思惑は為替相場にも現れており、トランプ氏勝利が報じられて以降、オフショア市場を中心に CNY 売りが優勢となっており、足許にかけて対ドルで3か月ぶりの安値を記録している。以上を踏まえ、為替相場を考察していく上では国内要因のみならず、来年以降は米中对立の深刻化やそれに伴う世界的な供給網や国際貿易取引の変化を見極める重要性が高まっていくように思われる。

図表 1: PMI の動向



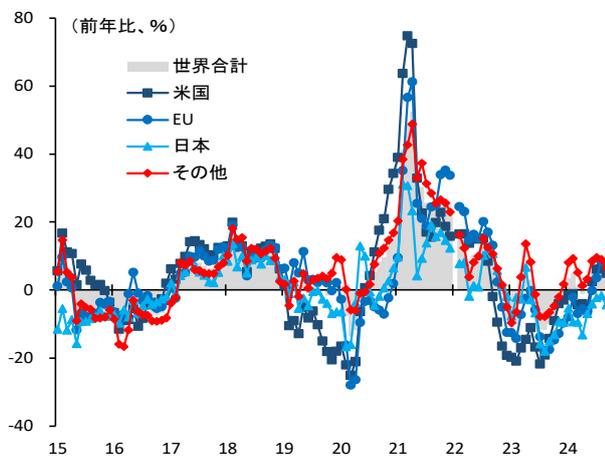
出所: Markit、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移(前年同期比%、%ポイント)



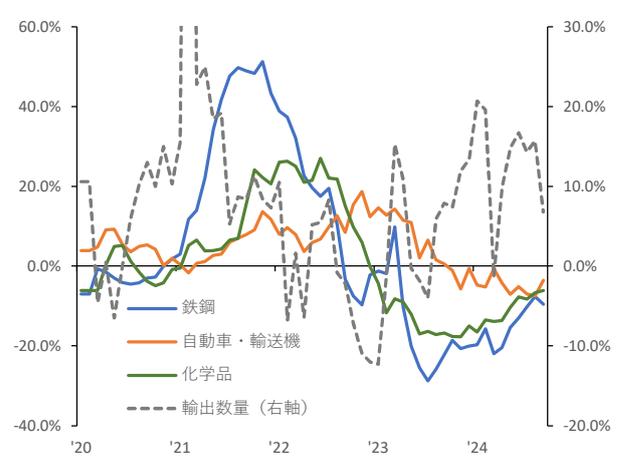
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 3: 中国の国別輸出動向



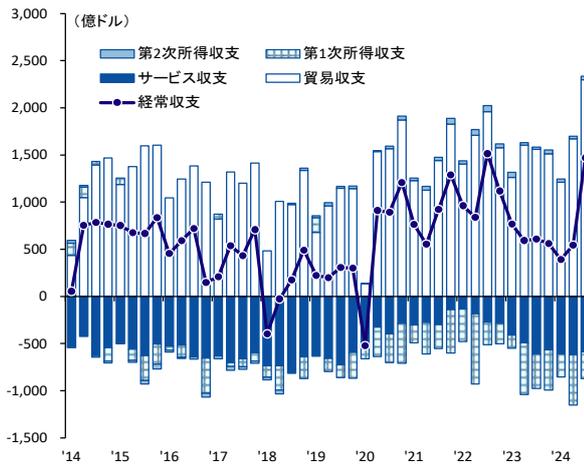
出所: Macrobond、みずほ銀行 ※後方3か月移動平均

図表 4: 製品別の輸出価格と輸出数量の動向(前年比%)



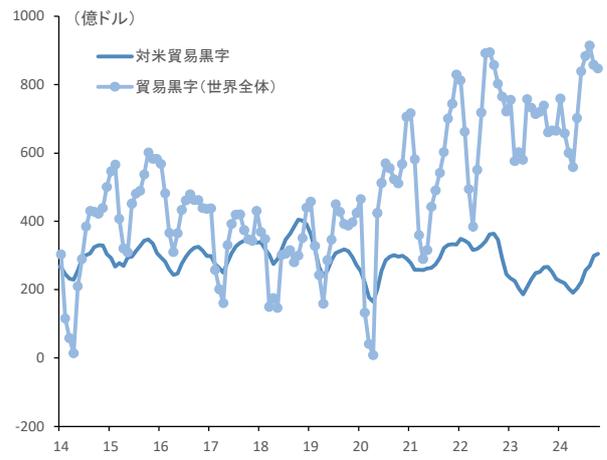
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: 経常収支の動向



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 6: 対米貿易黒字と貿易黒字の推移



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(インド)

10月消費者物価指数を受けて～利下げは2025年に持ち越しへ～

金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

11月12日、インドの10月消費者物価指数(CPI)が公表されたが、結果は+6.21%(前年比、以下同様)と9月の+5.49%および市場予想の+5.90%を大きく上回った(図表1)。また、食料品および燃料を除いたコアベースでは、+3.7%と9月の+3.5%からこちらも伸びが加速、年初来では最高の伸び率を記録した。なお、総合ベースではインド準備銀行(RBI、中央銀行)の目標レンジ+4.0%(±2.0%)の上限を突破したが、これは2023年8月以来1年2か月ぶりである。相応にショッキングな仕上がりとなった。

内訳を確認すると、食料品・飲料の寄与度が9月の+3.9%ポイントから10月には+4.6%ポイントへ大幅に拡大した。今後に関しては、前年比効果もあり11月、12月は総合ベースの伸び率は鈍化する可能性が非常に高い。もっとも、野菜価格は足許にかけても上昇基調にあり、PMI等でも景気の底堅さが確認される中で、RBIの想定水準(10～12月:+4.8%)に収れんできる可能性は高いとは言えない(図表2)。

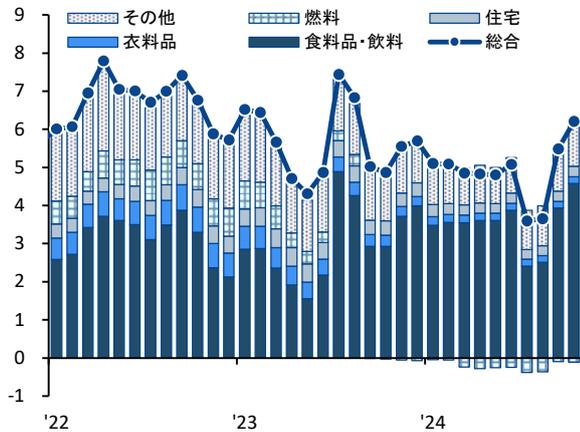
かかる中でRBIは、10月に実施された金融政策委員会(MPC)で政策金利のレポートを6.50%で据え置いた一方で、金融政策のスタンスはそれまでの”withdrawal of accommodation(金融緩和の撤回)”から”neutral(中立)”に変更している。これをもって「利下げの地均し」と判断する市場参加者もそれなりにいたのだが、雲行きは怪しい。例えば、ダスRBI総裁は11月6日、政策スタンスの変更に関して「利下げを意味するものではない」とけん制している。景気減速を宣言する必要はなく、大きなインフレ上昇リスクがある、とまで言及しており、今後の政策判断に関しては「非常に慎重になる」とも述べた。上述の最新の物価統計と合わせて考えても、次回12月会合でも利下げが見送られるだろう。12月MPC時点では、11月CPIは未公表である。11月、12月に物価上昇率が抑制されるにしても、最新の物価統計がRBIの目標レンジの上限を上回っている以上、利下げに着手するのは時期尚早と判断したい。利下げ開始は、2025年に持ち越しになりそうだ。

ところで、INR相場に関しては、過去最安値を更新しながらの推移が続いている(図表3)。米金利の大幅上昇、海外投資家によるインド株式の売り越しなどが重しになっている模様だ。もっとも、米大統領選挙の結果を受け多くの新興国通貨が売りに晒される中で、INRの下落幅および変動性は抑制されている。ロイターの報道などに基けば、RBIが積極的にINR買い介入を行っているようだ。ブルームバーグの推計においても、最近の介入動向はINR買いに傾斜していることが示されており、整合的だろう(図表4)。

米大統領選挙とINRに関しては、主要な新興国通貨と比較すれば、直接的な関係性には乏しい。もっとも、11月11日にはブルームバーグより興味深い報道がなされている。具体的には、当局者に近い関係者のコメントとして、今後トランプ氏の政策によって対中関税が引き上げられCNYが減価に至った場合、RBIはそれにつれる格好でINRの下落を容認する用意がある、と述べられている。CNYの減価により中国からインドへの輸出が増加し、インドの貿易赤字が更に拡大する可能性を警戒しているのだろう。

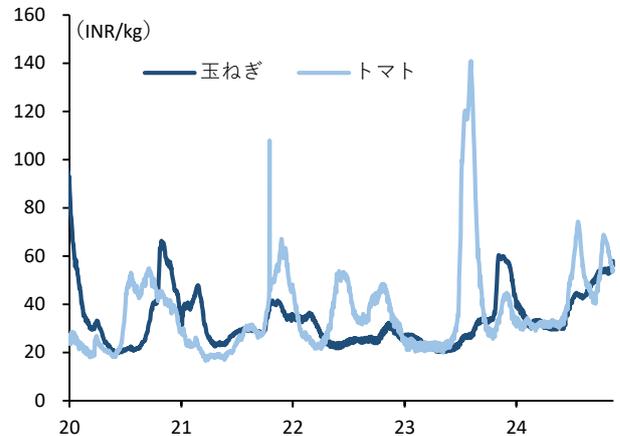
弊行のメインシナリオは来年にかけての緩やかな買い戻しなのだが、INRに関してはRBIの意向次第の側面が大きい。上記報道は事実とは限らないものの、もしRBIが緩やかな通貨安誘導を志向しているのであれば、INRも来年にかけても史上最安値を更新しながらの推移が続くリスクがある。

図表 1: 消費者物価指数の推移(%、%ポイント)



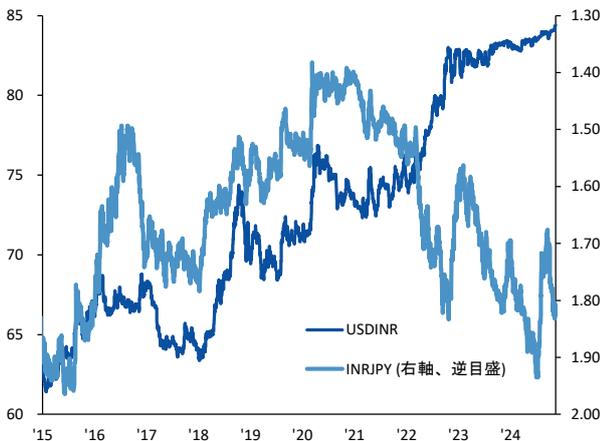
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 2: 玉ねぎとトマトの小売価格の推移



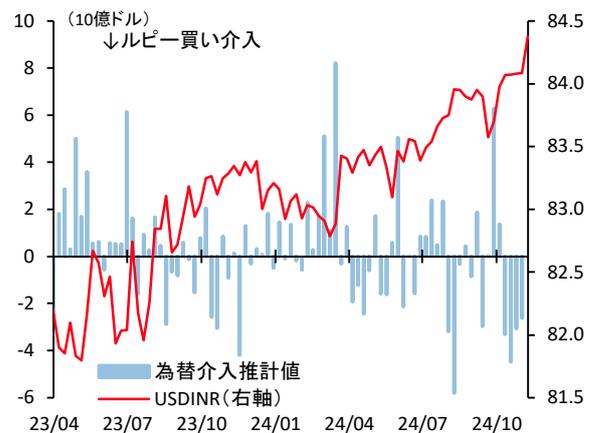
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 3: INR 相場動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: RBIによる為替介入の推計値



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

※介入推計値の最新データは11月1日週

市場概観(メキシコ)

Banxico はコア物価の鈍化基調を強調

金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

メキシコ中央銀行(Banxico)は14日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を▲25bp引き下げ、10.25%にすることを決定した(図表1)。決定は全会一致だった。利下げは前回9月会合に続き3会合連続である。

懸案のインフレ動向について Banxico は、総合ベースの伸びの強さとコアの鈍化継続の双方を強調した。物価動向に関し、7日に公表された10月の消費者物価指数(CPI)は、+4.76%(前年比、以下同様)と市場予想の+4.74%および前回の+4.58%を上回った(図表2)。当然、総合ベースでは、Banxicoの目標レンジ(前年比+3%±1%)への収斂は未達だ。一方、コアベース(+3.91%→+3.80%)は約4年ぶりの低い伸びになっている。懸案のコアサービス価格も、27か月ぶりに+5.0%を下回った。かかる中、Banxicoは総合ベースのインフレ見通しを若干上方修正した。具体的には、2024年10~12月期から2025年4~6月期にかけての数字を上昇修正している(図表3)。総合ベースのインフレ率が目標近傍に達する時期に関しては、2025年10~12月期で不変だった。半面、コア物価の見通しに関しては、2024年10~12月期の数字を僅かながら下方修正している(図表4)。見通しのリスクバランスは、上方へ傾いている旨の判断に変化はなかった。

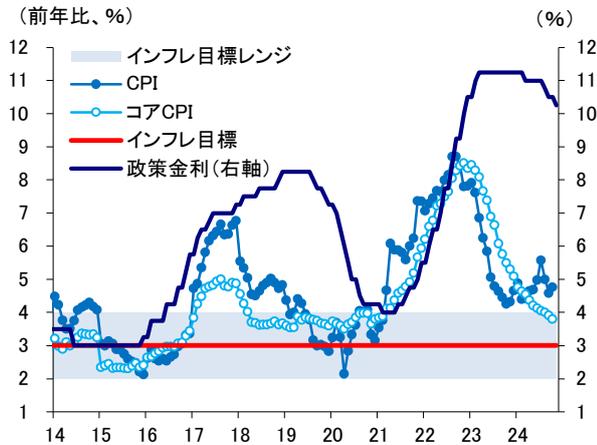
もっとも、インフレに関する現状認識においては、興味深い言及も見られた。それは、コア物価に関し「インフレ情勢をより上手く反映する」と表現し、そのうえでコア物価の基調的な低下を強調したことだ。このような情報発信は前回会合では確認できなかった。総合ベースのデフインフレの停滞を受け利下げスキップを見込む向きも一部ではあったのだが、現状 Banxico にその意思はないようだ。あくまで、コア物価の基調、および景気の下振れリスクを重視し、今後の利下げ継続にも前向きな姿勢を示していると考えられる。

以上 Banxico は連続利下げを決定した。声明文では「理事会は今後、インフレ環境がさらなる基準金利の調整を可能にすると予想している」と利下げの継続を示唆するフォワードガイダンスを維持した。以上の情報発信に加え、事業活動指数等から経済活動の弱まりが確認できる点、政策金利から1年先の期待インフレ率を引いた「短期実質政策金利」が Banxico の想定する「中立実質政策金利」を大きく上回っており、政策金利が過度に「引き締めの」である点、などを考慮に入れば先々の利下げ路線は支持される(図表5)。来年いっぱいにかけて▲25bpずつの利下げが続くと想定する。2024~25年末の政策金利予測は、それぞれ10.00%、8.00%で変わらない。もっともFRBの動向を考慮に入れば、政策金利パスのリスクは上に傾いている。

11月に入って以降のMXN相場は、米大統領・議会選挙が所謂「レッドスウィープ」になるとの思惑から売りに晒されている(図表6)。年内のMXNに関しては、目先は次期米政権の人事に関する話題に振られる展開が見込まれるが、買い戻しが優勢とみる。次期米政権がメキシコに対しどの程度厳しい対応をとるかは非常に不確実性が高いが、具体的な政策が市場の注目を集めるのは年明け以降だ。足許ではFRBに対する利下げ期待も大幅に後退しており、MXNの値動きを見る限り、メキシコのビジネス環境の悪化は相応に織り込まれているように思える。MXN売りが中期的に続く可能性はそこまで高くはないだろう。「トランプトレード」がある程度一服し市

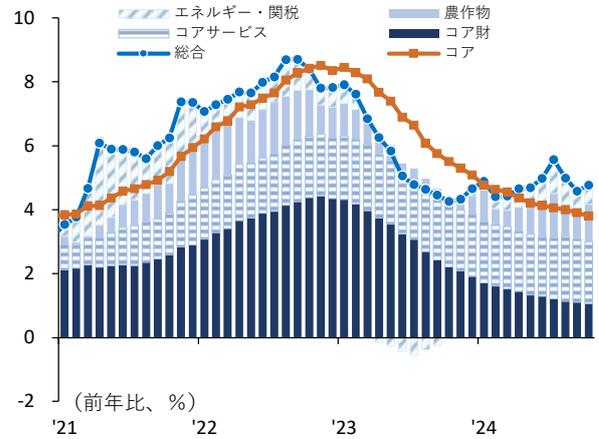
場の変動性が落ち着けば、一定の買い戻しの余地があると考えている。

図表 1: 政策金利とインフレ率



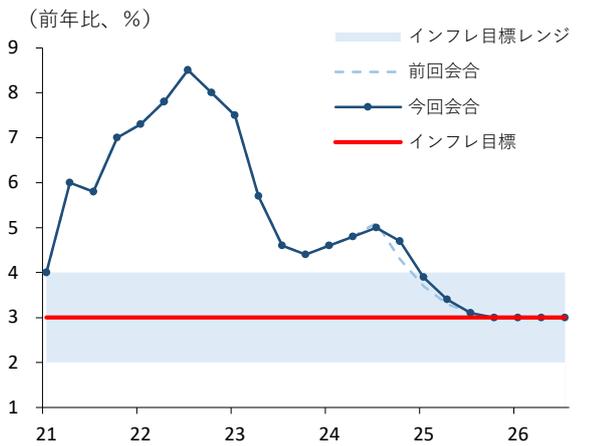
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価指数の推移



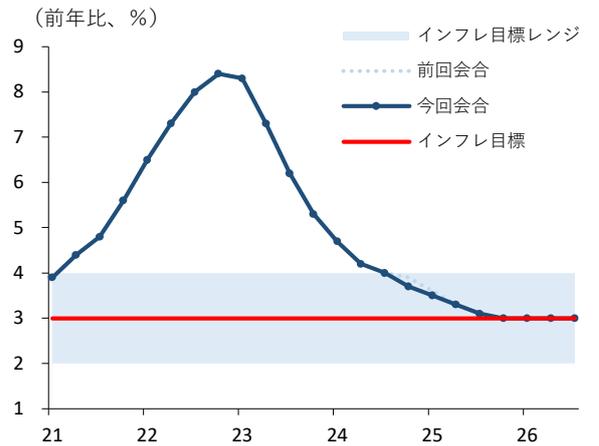
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 3: Banxico の CPI 見通し(総合ベース)



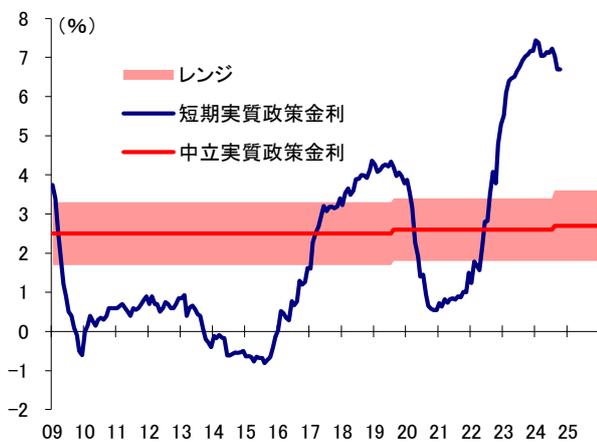
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: Banxico の CPI 見通し(コアベース)



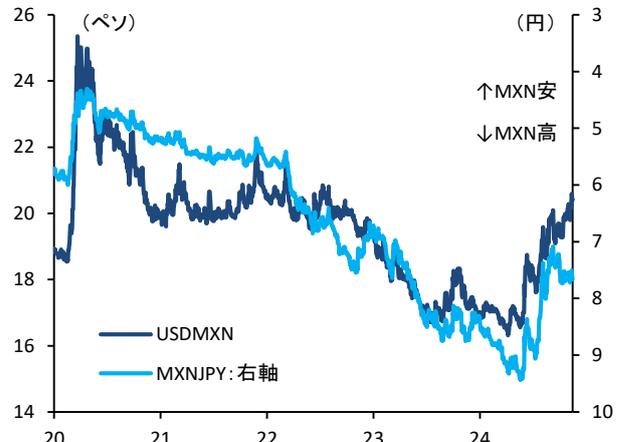
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 5: Banxico の想定する中立実質政策金利



出所: Macrobond、みずほ銀行

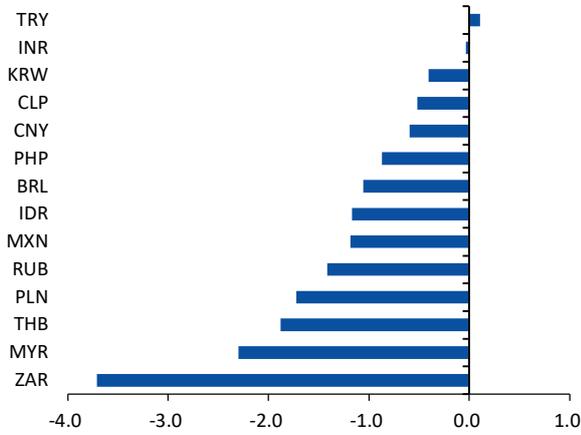
図表 6: MXN 相場



出所: Bloomberg、みずほ銀行

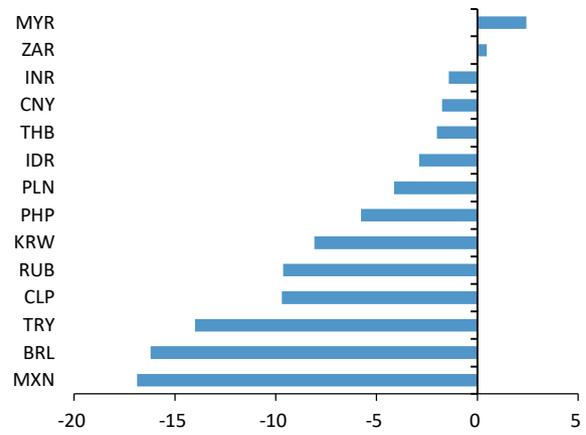
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



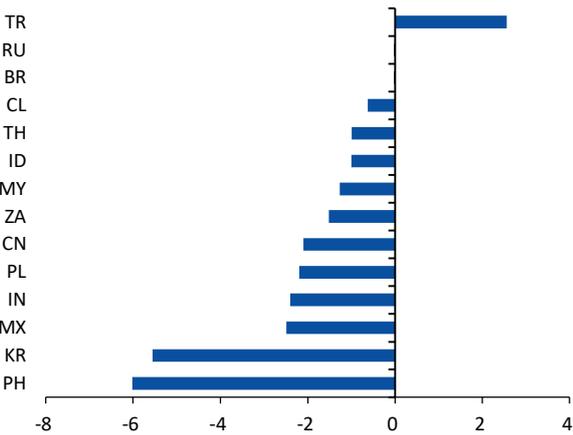
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



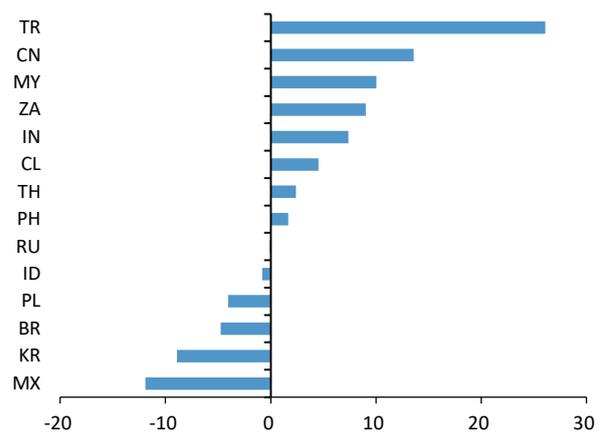
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



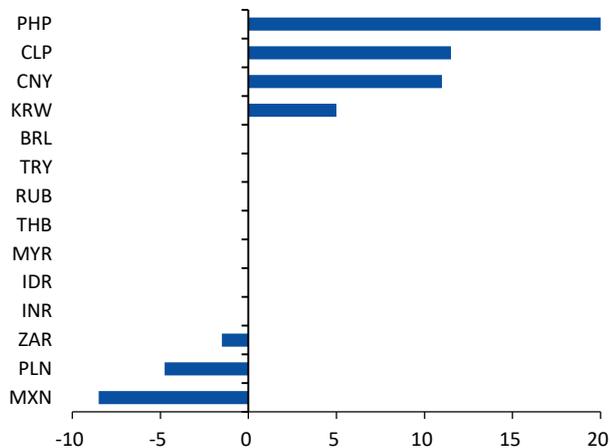
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

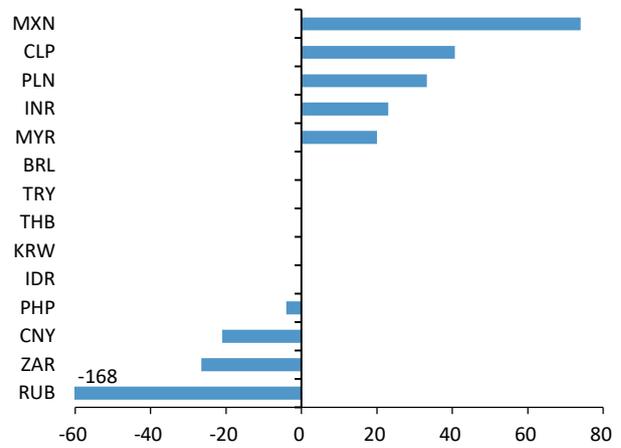
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

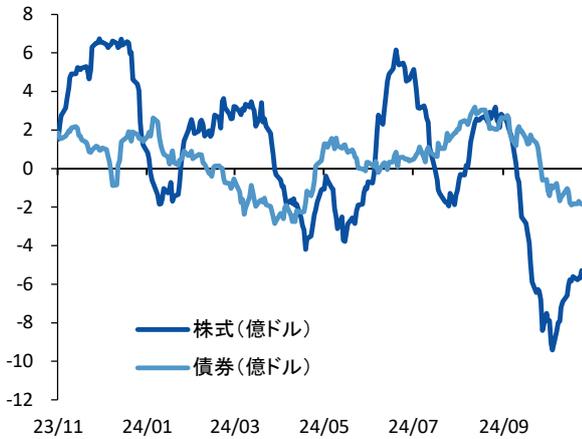


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

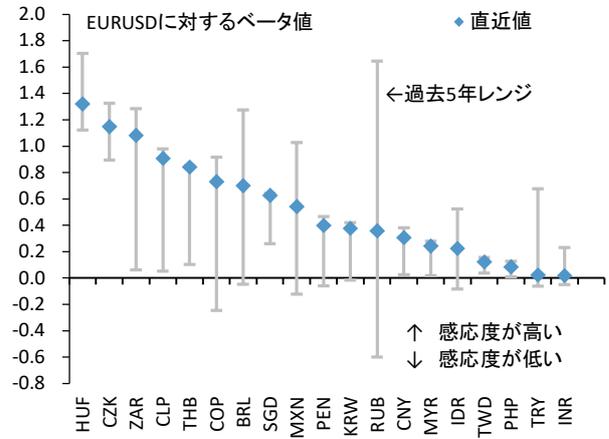
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



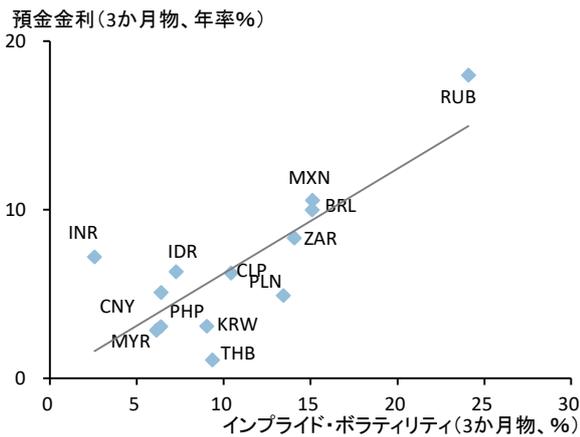
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



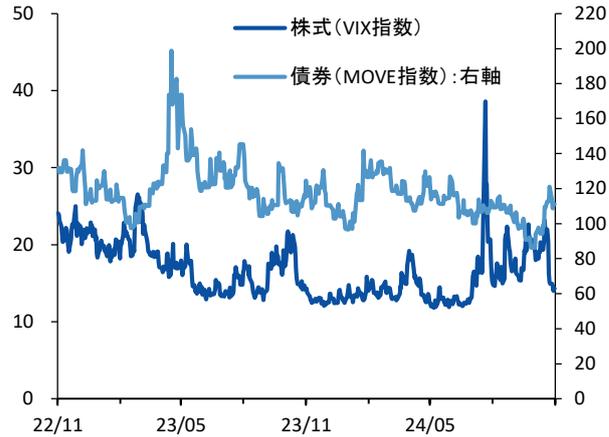
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



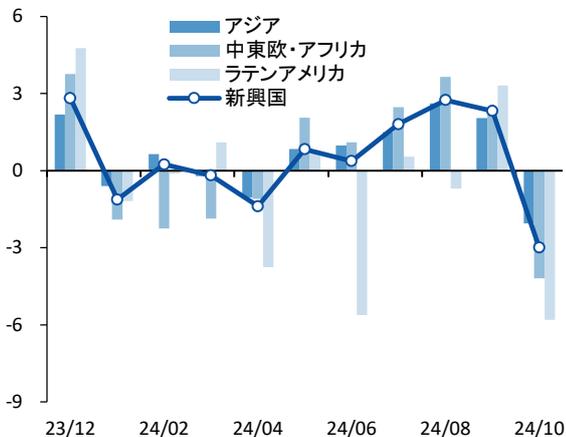
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



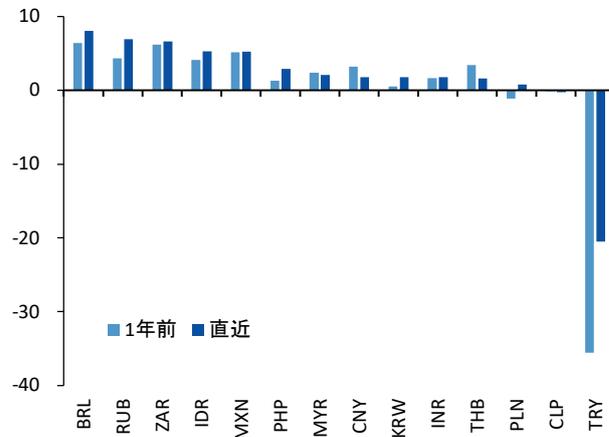
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率, %)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
11月12日 (火)	インド	CPI(前年比)	5.9%	6.2%	5.5%	--
12日 (火)	インド	鉱工業生産(前年比)	2.5%	3.1%	-0.1%	--
14日 (木)	インド	卸売物価(前年比)	2.3%	2.4%	1.8%	--
14-18日	インド	輸入(前年比)	--	3.9%	1.6%	--
14-18日	インド	輸出(前年比)	--	17.2%	0.5%	--
15日 (金)	中国	鉱工業生産(前年比)	5.6%	--	5.4%	--
15日 (金)	中国	小売売上高(前年比)	3.8%	--	3.2%	--
15日 (金)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	3.5%	--	3.4%	--
15日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	5.3%	--	5.3%	--
15日 (金)	インドネシア	貿易収支	\$3347m	--	\$3257m	--
15日 (金)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	3.2%	--	3.2%	--
18日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	2.7%	--
18日 (月)	タイ	GDP(前年比)	--	--	2.3%	--
19日 (火)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	-0.3%	--
19日 (火)	フィリピン	総合国際収支	--	--	\$3526m	--
20日 (水)	韓国	PPI 前年比	--	--	1.0%	--
20日 (水)	中国	1年貸出プライムレート	3.1%	--	3.1%	--
20日 (水)	インドネシア	BI-Rate	--	--	6.0%	--
20日 (水)	台湾	輸出受注(前年比)	--	--	4.6%	--
21-25日	シンガポール	GDP(前年比)	--	--	4.1%	--
22日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	1.8%	--
中東欧・アフリカ						
11月11日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	-2.4%	-5.3%	-5.2%
12日 (火)	トルコ	経常収支	2.83b	2.99b	4.32b	4.85b
12日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	1.1%	-0.8%	-1.2%	-0.8%
13日 (水)	ロシア	GDP(前年比)	2.9%	3.1%	4.1%	--
13日 (水)	ロシア	CPI(前年比)	8.6%	3.1%	8.6%	--
20日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	3.8%	--
20日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	3.2%	--
21日 (木)	ロシア	PPI 前年比	--	--	5.6%	--
21日 (木)	トルコ	1週間レポレート	--	--	50.0%	--
21日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	--	--	8.0%	--
22日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	4.6%	--
ラテンアメリカ						
11月11日 (月)	ブラジル	純債務対GDP比	62.3%	62.4%	62.0%	--
11日 (月)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	0.3%	-0.4%	-0.9%	-0.4%
12日 (火)	ブラジル	小売売上高(前年比)	3.5%	2.1%	5.1%	5.3%
14日 (木)	ブラジル	経済活動(前年比)	4.2%	5.1%	3.1%	--
14日 (木)	メキシコ	オーバーナイトレート	10.25%	10.25%	10.50%	--
21日 (木)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	-0.8%	--
22日 (金)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	--	--	1.5%	--
22日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	--	--	0.4%	--

注: 2024年11月15日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2024年 1～10月(実績)	SPOT	2024年 12月	2025年 3月	6月	9月	12月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	7.0048 ~ 7.2775	7.2271	7.20	7.16	7.08	7.03	7.05
香港ドル (HKD)	7.7611 ~ 7.8387	7.7814	7.77	7.76	7.76	7.75	7.76
インドルピー (INR)	82.649 ~ 84.108	84.410	84.1	83.3	82.5	82.8	82.4
インドネシアルピア (IDR)	15060 ~ 16481	15862	15400	15050	14980	14650	14800
韓国ウォン (KRW)	1290.39 ~ 1400.13	1403.13	1370	1350	1330	1310	1300
マレーシアリング (MYR)	4.0947 ~ 4.8053	4.4855	4.24	4.08	4.02	3.94	3.97
フィリピンペソ (PHP)	55.300 ~ 58.923	58.785	57.0	56.2	55.0	54.2	54.8
シンガポールドル (SGD)	1.2789 ~ 1.3670	1.3459	1.32	1.31	1.30	1.29	1.29
台湾ドル (TWD)	30.518 ~ 32.922	32.549	32.0	31.6	31.3	30.8	30.5
タイバーツ (THB)	32.14 ~ 37.25	34.96	33.6	33.4	33.0	32.1	32.1
ベトナムドン (VND)	24260 ~ 25477	25393	25100	24800	24470	24300	24400
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	82.6604 ~ 100.2751	98.9495	97.0	98.0	99.0	100.0	101.0
南アフリカランド (ZAR)	17.0356 ~ 19.3899	18.2853	17.8	17.6	17.4	17.2	17.0
トルコリラ (TRY)	29.6646 ~ 34.4898	34.4463	34.0	33.5	33.0	32.5	32.0
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	4.8317 ~ 5.8588	5.7966	5.70	5.55	5.40	5.45	5.50
メキシコペソ (MXN)	16.2616 ~ 20.2278	20.4069	19.6	19.2	19.0	19.3	19.5
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	19.666 ~ 22.256	21.571	21.11	20.95	21.33	21.76	21.99
香港ドル (HKD)	17.905 ~ 20.733	20.080	19.56	19.33	19.46	19.74	19.97
インドルピー (INR)	1.664 ~ 1.939	1.851	1.81	1.80	1.83	1.85	1.88
インドネシアルピア (100IDR)	0.876 ~ 0.999	0.985	0.987	0.997	1.008	1.044	1.047
韓国ウォン (100KRW)	10.368 ~ 11.735	11.135	11.09	11.11	11.35	11.68	11.92
マレーシアリング (MYR)	30.593 ~ 35.497	34.803	35.85	36.76	37.56	38.83	39.04
フィリピンペソ (PHP)	2.451 ~ 2.776	2.651	2.67	2.67	2.75	2.82	2.83
シンガポールドル (SGD)	106.65 ~ 120.03	116.11	115.15	114.94	116.15	118.60	119.88
台湾ドル (TWD)	4.335 ~ 4.976	4.800	4.75	4.75	4.82	4.97	5.08
タイバーツ (THB)	4.018 ~ 4.558	4.464	4.52	4.49	4.58	4.77	4.83
ベトナムドン (10000VND)	0.5646 ~ 0.6365	0.6152	0.61	0.60	0.62	0.63	0.64
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.491 ~ 1.907	1.579	1.57	1.53	1.53	1.53	1.53
南アフリカランド (ZAR)	7.588 ~ 8.973	8.545	8.54	8.52	8.68	8.90	9.12
トルコリラ (TRY)	4.071 ~ 4.978	4.521	4.47	4.48	4.58	4.71	4.84
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	24.416 ~ 31.200	26.968	26.67	27.03	27.96	28.07	28.18
メキシコペソ (MXN)	6.991 ~ 9.455	7.656	7.76	7.81	7.95	7.93	7.95

注:1. 実績の欄は2024年10月31日まで。SPOTは11月15日の7時15分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。